

小谷場中だより

教育目標〈自主 協働 創造〉 校訓〈力の限り〉

川口市立小谷場中学校

〒333-0857

川口市大字小谷場1156番地

TEL 048(267)1055

FAX 048(267)1069

6月号 令和3年6月1日

おこだでませんように

校長 野本 慶人

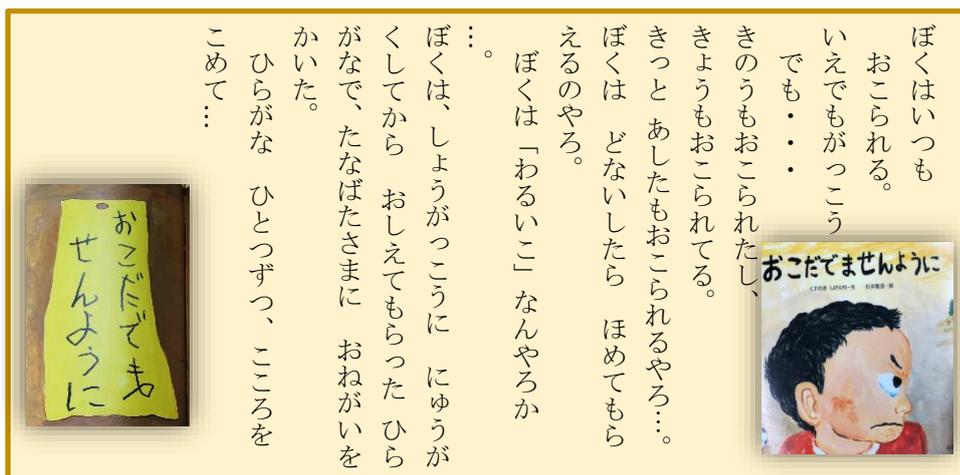
親には子どもへの期待や願い、思いがあります。それをいかに伝えるかはとても難しく、悩みます。一方、子どもたちも大変なのです。家でテスト勉強中に友達からのメールを見た瞬間、親から「少しは勉強しなさい。」となったり、部活やお稽古、塾を頑張って家に帰り、一息ついていたら、うとうととしてしまい、声をかけられて「今、やろうと思ったのに。」となったりはよくある光景ではないでしょうか。

次にあげる「おこだでませんように」(くすのきしげのり作)という絵本は多くの人が読んだことがあると思います。

(一部抜粋) ⇒

この絵本を読むと、忘れかけていた子どもの頃の気持ちがあふとよみがえります。特に、妹が泣く度に、親に怒られる場面はいちばん共感しました。

また、教師や親の立場としても教えられることの多い絵本です。



主人公の子どもは楽しいと思ってしたことや良かれと思ってしたこと、やり過ぎてしまったり、その場にそぐわなかったりして、怒られることになってしまったのかもしれない。

さて、お子さんが中学生となった今、この主人公よりも更にお子さんと接する時間は少なくなっていることでしょう。そして、多忙な毎日の中で交わされる会話や目にするお子さんの行動から、お子さんの心を理解することは難しいに違いありません。

この主人公が七夕の短冊に書いた「おこだでませんように」のように、**ふとした言葉や行動の中にお子さんの思いに気づくヒントがあるのかもしれない。**

そして、それに気づいたとき、思っていたよりもずっと成長しているお子さんの「今」の姿を知り、親の期待や願い、思いを超えた子どもの力に驚かされ、胸が熱くなるのです。

残念ながら、学校総合体育大会は保護者の応援をご遠慮いただくこととなりましたが、その日の話を生徒の姿の中に「思い」が、きつとあるのだらうと思います。

この絵本は、左のように締めくくられております。今年の七夕さままで、ひと月ありますので、心の短冊にメモをしておいてください。

たなばたさま ありがとう。
ほんまに ありがとう。
きょう、ぼくは ものすごく
しあわせです。
おれいに ぼく もっと
もっと ええこになります。